

2 世界遺産登録を目指して

北海道と青森・岩手・秋田の北東北3県の13市町に所在する17件の資産で構成された「北海道・北東北の縄文遺跡群」は、令和2年9月にイコモス（ユネスコ世界遺産委員会の諮問機関）による登録審査の一環として現地調査が行われました。令和3年7月後半に開催されたユネスコ世界遺産委員会で、世界遺産一覧表に記載されました。

(1) 世界遺産登録に向けた体制と事業について

平成14年の北海道・北東北知事サミットにおける北海道知事の提案に基づいて、北海道は、縄文文化を核にした地域間交流を行う「北の縄文文化回廊づくり」事業を青森・岩手・秋田の3県とともに平成16年度から進めてきました。

縄文遺跡群が平成21年1月にユネスコ世界遺産センターの管理する世界遺産暫定一覧表（世界遺産候補となる各国資産のリスト）に記載されたのは、この取組みが基盤になっています。

平成21年の6月には4道県及び資産を所管する12市町（道内2市2町）は首長と教育長で構成する「縄文遺跡群世界遺産登録推進本部」を設置し、登録推進のための事業に継続して取り組みました。平成24年度には構成資産の追加に伴い、さらに2市（道内1市）が推進事業に加わりました。

登録推進本部では、日本政府がユネスコに縄文遺跡群の内容を説明し、審査を受けるための推薦書のもとになる「世界遺産登録推薦書原案」を平成25年7月に文化庁へ提出し、その後も文化審議会から示された諸課題について国内外の専門家の助言を得ながら作成した「推薦書素案」を文化庁に提出してきました。令和元年7月の文化審議会で、同年度の世界文化遺産推薦候補物件として選定され、令和2年1月には国からユネスコに提出された「推薦書」が受理されました。推薦後、世界遺産登録実現までは、登録推進本部と「縄文遺跡群世界遺産保存活用協議会」が併置されていました。

推進本部は令和元年12月に「包括的保存管理計画」を策定し、資産全体を一体的に保存・管理し、整備・活用するための方針や方法を提示しています。今後、登録の実現後に公開する予定です。

世界遺産への登録を実現するためには、それを妥当とするだけの国際的な評価や日本を代表する文化遺産の一つとして広く国内の支持を得ることも必要です。登録推進本部では、国際会議の開催、広報資料の作成や展示会の開催等、各種の普及啓発事業を通じて、国内外に縄文遺跡群の「顕著な普遍的価値」を発信しています。

これまで東京会場で開催されていた「縄文遺跡群世界遺産登録推進フォーラム」は、今年度は「YouTube 縄文遺跡群世界遺産登録推進本部チャンネル」の中で配信されています。

◆ 「YouTube 縄文遺跡群世界遺産登録推進本部チャンネル」

https://www.youtube.com/playlist?list=PL7c2xYXTnHVwdnXjjhDZT5F8H_ftaEWuh

令和3年3月に札幌会場で開催されたフォーラムでは、北海道博物館長の石森秀三氏による、縄文人から現代人が学ぶべきことに関する講演を基調に、有識者による登録を見据えたパネルディスカッションを行い、73名の参加者がありました。

○世界遺産登録推進フォーラム札幌会場



基調講演の様子

(2) 4道県共通ホームページの作成について

世界遺産登録をめざす「北海道・北東北の縄文遺跡群」の普及啓発を目的として、4道県では平成25年8月に、共通ホームページを開設しました。

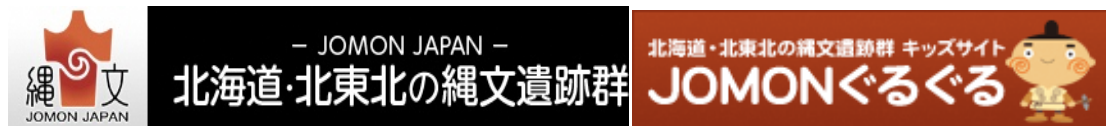
また、平成26年3月には、子どもたちに縄文遺跡群の魅力を紹介する北海道・北東北の縄文遺跡群キッズサイト「JOMON ぐるぐる」を開設しています。

◆「JOMON JAPAN 北海道・北東北の縄文遺跡群」

ホームページ：<https://jomon-japan.jp/>

◆北海道・北東北の縄文遺跡群キッズサイト「JOMON ぐるぐる」

ホームページ：<https://jomon-japan.jp/kids/>



(3) 北海道の独自事業について

平成23年度には、世界遺産の登録を推進する組織として知事部局に「縄文世界遺産推進室」が設置され、北海道教育委員会と連携して、道内における気運の醸成を図るために道独自の事業を行っています。

令和2年8月には「縄文夏まつり in チカホ」を令和3年3月には「縄文春まつり in チカホ」を札幌駅前通地下歩行空間で開催しました。また、北斗市、様似町、枝幸町で「北の縄文リレー展」を、北斗市、様似町で「北の縄文セミナー」を開催しました。



縄文夏まつり in チカホ



縄文春まつり in チカホ



北の縄文リレー展（北斗市）



北の縄文セミナー（北斗市）

（４）「北海道東部の窪みで残る大規模竪穴住居跡群」について

平成19年9月、北海道は北見市、標津町とともに「北海道東部の窪みで残る大規模竪穴住居跡群」を世界遺産暫定一覧表に記載するよう文化庁に提案しましたが、現状では世界遺産としての証明が不十分であることから記載は見送られました。

平成27年度からは、大規模竪穴住居跡群の価値の証明に向けて、道内の関係遺跡の全体像を把握するための総合調査及び個別調査を開始しました。平成27年度から29年度までを第1次調査、そしてこの調査成果をふまえて、平成30年度から4カ年計画で第2次調査を引き続き実施しています。

令和2年度の総合調査では十勝・根室管内の竪穴群を中心に調査を実施しました。個別調査では北海道立埋蔵文化財センター指定管理者が指定管理業務（重要遺跡確認調査）として、興部町興部豊野竪穴群（A）の調査を実施しました。

竪穴群に関する関係情報は次のページで公開しています。

◆「竪穴群ポータル」

ホームページ：<http://www.dokyoii.pref.hokkaido.lg.jp/hk/bnh/pd/portal.htm>

3 日本遺産(Japan Heritage)について

「日本遺産 (Japan Heritage)」とは、地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを国が認定するものです。

ストーリーを語る上で欠かせない魅力溢れる有形や無形の様々な文化財群を、地域が主体となって総合的に整備・活用し、国内だけでなく海外へも戦略的に発信していくことにより、地域の活性化を図ることを目的としています。

道内の日本遺産 (Japan Heritage) 認定概要

[平成 29 年度認定]

① 江差町

《江差の五月は江戸にもない ―ニシン繁栄が息づく町―》

(ストーリーの概要)

江差の海岸線に沿った段丘の下側を通っている町並みの表通りに、切妻屋根の建物が建ち並び、暖簾・看板・壁にはその家ごとの屋号が掲げられている。緩やかに海側へ下っている地形にあわせて蔵が階段状に連なり、海と共に生きてきた地域であることがうかがえる。

この町並みは、江戸時代から明治時代にかけてのニシン漁とその加工品の取引によって形成されたもので、その様は「江差の五月は江戸にもない」と謳われるほどであった。

ニシンによる繁栄は、江戸時代から伝承されている文化とともに、今でもこの地域に色濃く連綿と息づいている。



「ニシンによる繁栄が息づく江差の町並み」

② 函館市・松前町・小樽市・石狩市（北海道）、鱒ヶ沢町・深浦町・野辺地町（青森県）、秋田市・にはか市・男鹿市・能代市・由利本荘市（秋田県）、酒田市・鶴岡市（山形県）、新潟市・長岡市・佐渡市・上越市・出雲崎町（新潟県）、富山市・高岡市（富山県）、加賀市・輪島市・小松市・金沢市・白山市・志賀町（石川県）、敦賀市・南越前町・坂井市・小浜市（福井県）、宮津市（京都府）、大阪市・泉佐野市（大阪府）、神戸市・高砂市・新温泉町・赤穂市・洲本市・姫路市・たつの市（兵庫県）、鳥取市（鳥取県）、浜田市（島根県）、倉敷市（岡山県）、尾道市・呉市・竹原市（広島県）、多度津町（香川県）

（※小樽市・石狩市（北海道）、野辺地町（青森県）、にはか市・男鹿市・能代市・由利本荘市（秋田県）、佐渡市・上越市（新潟県）、輪島市・小松市（石川県）、坂井市・小浜市（福井県）、宮津市（京都府）、大阪市（大阪府）、神戸市・高砂市・新温泉町・赤穂市・洲本市（兵庫県）、鳥取市（鳥取県）、浜田市（島根県）、倉敷市（岡山県）、尾道市・呉市（広島県）は、平成30年度追加）

（※鶴岡市（山形県）、出雲崎町（新潟県）、金沢市（石川県）、姫路市、たつの市（兵庫県）、竹原市（広島県）、多度津町（香川県）は、令和元年度追加）

（※白山市、志賀町（石川県）、泉佐野市（大阪府）は、令和2年度追加）

《荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間 ～北前船寄港地・船主集落～》

（ストーリーの概要）

日本海や瀬戸内海沿岸には、山を風景の一部に取り込む港町が点々とみられます。そこには、港に通じる小路が随所に走り、通りには広大な商家や豪壮な船主屋敷が建っています。

また、社寺には奉納された船の絵馬や模型が残り、京など遠方に起源がある祭礼が行われ、節回しの似た民謡が唄われています。

これらの港町は、荒波を越え、動く総合商社として巨万の富を生み、各地に繁栄をもたらした北前船の寄港地・船主集落で、時を重ねて彩られた異空間として今も人々を惹きつけてやみません。



「函館山」



「松前屏風」

[平成 30 年度認定]

上川町、旭川市、富良野市、愛別町、上士幌町、上富良野町、鹿追町、士幌町、新得町、当麻町、東川町、比布町

《カムイと共に生きる上川アイヌ～大雪山のふところに伝承される神々の世界～》

(ストーリーの概要)

美しく厳しい大雪山のふところに、カムイ～神～を見出し共に生きた“上川アイヌ”。

彼らは激流迸る奇岩の渓谷に魔神と英雄神の戦いの伝説を残し、神々への祈りの場として崇めた上川アイヌの聖地には、クマ笹で葺かれた家などによりコタンを形成し祈りを捧げ続ける。

上川アイヌは「川は山へ遡る生き物」と考え、最上流の大雪山を最も神々の国に近く、自然の恵みをもたらす、カムイミンタラ～神々の遊ぶ庭～として崇拝してきた。

神々と共に生き、伝承してきた上川アイヌの文化は、この大地に今も息づいている。



「大雪山の雄大な自然」

[令和元年度認定]

赤平市、小樽市、室蘭市、夕張市、岩見沢市、美唄市、芦別市、三笠市、栗山町、月形町、沼田町、安平町

《本邦国策を北海道に見よ！～北の産業革命「炭鉄港」～》

(ストーリーの概要)

明治の初めに命名された広大無辺の大地「北海道」。その美しくも厳しい自然の中で、「石炭」・「鉄鋼」・「港湾」とそれらを繋ぐ「鉄道」を舞台に繰り広げられた北の産業革命「炭鉄港」は、北海道の発展に大きく貢献してきました。

当時の繁栄の足跡は、空知の炭鉱遺産、室蘭の工場景観、小樽の港湾そして各地の鉄道施設など、見る者を圧倒する本物の産業景観として今でも数多く残っています。

100 km圏内に位置するこの3地域を原動力として、北海道の人口は約100年で100倍になりました。その急成長と衰退、そして新たなチャレンジを描くダイナミックな物語は、これまでにない北海道の新しい魅力として、訪れる人に深い感慨と新たな価値観をもたらします。



[令和2年度認定]

標津町、根室市、別海町、羅臼町

《鮭の聖地の物語～根室海峡一万年の道程～》

(ストーリーの概要)

北海道最東の海、根室海峡。この地では、遙か一万年の昔から、絶えず人々の暮らしが続いてきました。その支えとなったのは、大地と海を往来し、あらゆる生命の糧となった鮭です。毎年秋に繰り返される鮭の遡上という自然の摂理の下、当地では人と自然、文化と文化の共生と衝突が起こり、数々の物語と共に、海路、陸路、鉄路、道路という、根室海峡に続く「道」が生まれます。一万年に及ぶ時の流れの中で、鮭に笑い、鮭に泣いた根室海峡沿岸。ここはいつも、人と自然、あらゆるものが鮭とつながる「鮭の聖地」です。



「鮭山漬け寒風干し」



「野付半島」



「標津遺跡群伊茶仁カリカリウス遺跡」

4 ほっかいどう民俗芸能振興事業について

道内各地で民俗芸能に取り組んでいる子どもたちに発表の機会を提供することにより、地域の文化への興味関心や郷土愛を育むとともに、次代を担う後継者の育成や民俗芸能の普及振興を図ることを目的に、平成 27～29 年度の 3 年間、全道 4 つのブロックで、民俗芸能の伝承講座を受講した子どもたちが、習得した民俗芸能を発表する成果発表会を開催し、平成 30 年度は、その集大成として、北海道 150 年記念式典に併せて全道大会を開催しました。

令和元年度からは、民俗芸能の保存団体や市町村に対し、他団体との交流の機会や他県の先進的な取組に触れる機会を提供することで、伝承活動の取組を充実し、継続的な振興・伝承を図ることを目的に、民俗芸能伝承フォーラムを開催することとしましたが、令和 2 年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、代替事業として遠隔システムによる「ほっかいどう民俗芸能伝承 e (いー) フォーラム」を開催しました。

(1) 平成 27～29 年度実施事業「成果発表会」

年 度	ブロック	会 場	演 目
H27	道南	森町	江良八幡神社杵振舞（松前町）、江差追分踊り（江差町）、 勇払千人隊御会所太鼓（苫小牧市）、襟裳神楽（えりも町）
H28	道央	札幌市	峰延獅子舞（美唄市）、恵庭岳太鼓（恵庭市）、 松前神楽（小樽市）
H29	道北	東川町	越中踊り（東川町）、岩戸神楽（留萌市）、 南浜獅子神楽（利尻富士町）、豊郷神楽（網走市）
	道東	帯広市	大正宮神楽（帯広市）、白蛇姫舞（鹿追町）、 釧路鳥取傘踊り（釧路市）、寿子ども蝦夷和太鼓（釧路市） 、厚床獅子舞（根室市）

(2) 平成 30 年度「ほっかいどう子ども民俗芸能全道大会」

年 度	会 場	演 目
H30	札幌市 (北海きたえーる)	大正宮神楽（帯広市）、恵庭岳太鼓（恵庭市）、 南浜獅子神楽（利尻富士町）、江差追分踊り（江差町）、 松前神楽（小樽市）

(3) 令和元年度実施事業「民俗芸能伝承フォーラム」

年 度	管 内	会 場	講師・出演団体
R1	渡島	函館市	懸田弘訓氏(NPO法人民俗芸能を継承するふくしまの会理事長) 原釜神楽保存会(福島県相馬市) 松前神楽函館連合保存会(函館市)
	後志	小樽市	懸田弘訓氏(NPO法人民俗芸能を継承するふくしまの会理事長) 原釜神楽保存会(福島県相馬市) 松前神楽小樽ブロック保存会(小樽市)

(4) 令和2年度実施事業「民俗芸能伝承 e フォーラム」

年 度	会 場	演 目
R2	14管内 (遠隔システムに より実施)	日向神代神楽(士別市)、苫前町くま獅子舞(苫前町)、 神楽舞・筑子唄(羽幌町)、利尻麒麟獅子舞(利尻町)、 南浜獅子神楽(利尻富士町)、豊里神楽(網走市)

5 北海道文化財保護強調月間について

平成20年度に、北海道教育委員会、札幌市、北海道都市教育委員会連絡協議会、北海道町村教育委員会連合会、北海道文化財保護協会及び北海道博物館協会の6者は共同で、毎年10月8日～11月7日の期間を、「北海道文化財保護強調月間」として設定しました。

期間中には、各市町村教育委員会や道内の博物館等の協力により、道内にある貴重な文化財の価値を正しく理解し、地域全体で後世に伝えていくため、子どもたちや地域の人々が文化財に親しむ環境づくりの推進を目的として、文化財公開・活用事業(指定文化財の一般公開や文化財に関連する事業)を実施しています。

なお、第13回北海道文化財保護強調月間ポスターには、一般財団法人北海道文化財保護協会が実施しました「凧づくりと昔のくらし体験」の写真を掲載し、文化財への興味・関心の醸成、保存・活用の啓発に努めました。

今後も、市町村教育委員会等の協力を得ながら、様々な形で、児童・生徒の皆さん、そして、広く道民の方々が文化財を身近に感じ、親しんでいただく機会の提供に取り組めます。

・文化財保護強調月間ホームページ

<http://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/bnh/kyoutyougekkkan.htm>

「北海道文化財保護強調月間」の設定の趣旨

私たちの郷土・北海道には、豊かな自然や北国の風土の中で育まれてきた縄文時代の遺跡やアイヌの人たちの伝統的な文化をはじめ、全国各地からの移住や北海道開拓によりもたらされた多様な文化財が数多く残されています。

これらの文化財は、本道の歴史や文化を理解する上で欠くことのできないものであり、現代を生きる私たちに、先人の知恵と技を伝え、日々の暮らしに精神的な豊かさや潤いをもたらす道民の貴重な共有財産です。

しかし、一方で、長い歴史の中で受け継がれてきた文化財の中には、社会構造の変化や少子・高齢化の進行などに伴い、保存や伝承が困難となっているものもあるため、文化財に対する親しみや理解を深めながら、次世代に確実に守り伝えていくことが、いま、課題となっています。

私たち6団体は、市町村教育委員会や関係団体の皆様方と連携協力し、道民の方々が文化財に親しむ環境づくりを推進するとともに、貴重な文化財を地域全体で継承していくため、国の「文化財保護強調週間」や「北海道教育の日」との連動を図り、新たに、毎年10月8日から11月7日までを「北海道文化財保護強調月間」として設定することをここに宣言します。

平成 20 年 7 月 17 日

北海道文化財保護強調月間ポスター



NPO 法人北海道遺産協議会

「北海道遺産パネル展」



6 アイヌ民俗文化財の保存・伝承

北海道の貴重な文化的所産であるアイヌ文化は、伝承者の高齢化などにより世代間の伝承が難しい現状にあり、記録等を行うことが困難となる可能性があります。このため、北海道教育委員会は、アイヌの人たちの諸文化を調査・記録するとともに、地域の伝承活動を支援し、貴重なアイヌ文化を次世代に継承するため、様々な事業を行っています。

(1) アイヌ民俗文化財調査事業

アイヌ民俗文化財に係る調査等を行い、報告書を刊行しました。報告書はアイヌ文化に係る道内外の研究機関及び大学図書館、主要な公立図書館等に配付し、活用を図りました。

[金成マツノート整理・翻訳、刊行]

ユーカラ等の口承文芸をローマ字で記録した伝承者・^{かんなり}金成マツのノートを整理・翻訳し、その成果を次の2冊の報告書として刊行しました。

・ユーカラシリーズ 67

『金成マツ筆録アイヌ叙事詩「尾を弄び尾を強くする曲 半分/尾を弄び尾を強くする曲 (1)」』

萱野志朗 訳

・ユーカラシリーズ 68

『金成マツ筆録アイヌ叙事詩「英雄叙事詩 白い巻貝 (2)」』

切替英雄、高橋靖以 訳

[令和2年度アイヌ民俗文化財調査報告書]

アイヌの人たちが祖先から伝承してきた生活や生産生業に関する民俗技術について、テーマを設定して調査を実施し、報告書を刊行しました。

- ・生活習慣（成人儀礼等）に関する民俗技術Ⅰ 藤村久和、花輪陽平 著

(2) アイヌ民俗文化財伝承・活用事業

アイヌ文化への理解を促進し、アイヌ民俗文化財を保存・伝承するため、伝統的な民俗技術及び民俗芸能を学ぶことを目的とした次の事業を実施しました。

また、専門職員等を対象に研修会を開催しました。

- ① アイヌ民俗技術伝承講座：道内5会場
(延べ60講座、延べ参加人員503人)
- ② アイヌ民俗芸能伝承講座：道内4会場
(延べ40講座、延べ参加人員288人)
- ③ アイヌ文化財専門職員等研修会
(会場：札幌、参加人員：21人)



アイヌ古式舞踊練習風景